

【IT記者会】

ベテランプログラマがLLP システム設計の技術を伝承

1970年代のはじめに情報産業界（当時はコンピュータ業界）に入り、勃興期からメインフレーム全盛期のソフトウェア開発業務に従事し、現在もシステム開発の現場に立っているベテランプログラマたちが、有限責任事業組合（LLP）を発足させた。「コンピュータ職人の会LLP001」がそれ。

設立に参加したのは市川克樹、草島豊、小碓輝雄、国分芳宏、高橋真規、谷脇竹治、中川隆、湯澤一比古の8氏。個々には紹介しないけれどデータベースやオープンシステム、ソフトウェア工学関連の解説書を執筆したり、日本語ワープロソフトを開発するなど、いずれも「プログラマ」の仕事に誇りを持っている“サムライ”たちだ。

LLPは今年5月の会社法施行に伴って実施された民法組合の特例制度（2005年4月27日施行「有限責任事業組合契約に関する法律（LLP法）」：所管は経済産業省経済産業政策局産業組織課）で、「創業を促し、企業同士のジョイント・ベンチャーや専門的な能力を持つ人材の共同事業を振興するために 出資者全員の有限責任 内部自治の徹底 構成員課税の適用という特徴を併せ持つ」とされる。

8人は昨年2月から実質的な活動を開始、呑み会などを通じて意見を交換してきた。組合契約書（いわゆる定款に相当）には、コンピュータ関係の書籍の編修及び販売
コンピュータ関係のセミナーの企画及び実施
コンピュータ関係のイベントの企画及び運営
コンピュータに関するコンサルティング業務
コンピュータ関係の物品の企画及び販売
などが謳われている。

小冊子『IT版百人一首』

このほど「まずはあまり肩大学の力を入れない仕事から」と、『僕ら職人異首（上）IT版小倉百人一首』（四・六判、128ページ、税込価格1,000円）をイデア出版から刊行した。前書きにいわく「ソフトウェア産業の立上げを牽引してきたソフトづくりの職人であると自覚して、そのような職人がいままでの経験で感じてきたことを少しでも表現してみたい、という願望が込められている」とある。

本業で設ける気持ちありません 株さえ公開できれば良いの 持株天王
ITのふりをしてます人貸しで 儲けることが大事なんです 醜柔法師
全国を光で結ぶLGWAN 中を走るはお役所メール 大中抜能無朝臣
お役所は仕様変更当たり前 その費用は誰がみるのか 曾連好忠

大学の入学試験にBASIC GOTO文がまだ残っている 行先羽不要

オブジェクト指向といえど原点は 人と人との意思疎通から 大混乱近倒
など、批判精神に満ちた戯れ歌、ベテランプログラマならではの自負や嘆きの歌
が掲載されている。電車通勤の行き帰り、気軽に読んで思わずニヤリ、という歌が少
なくない。

07年問題の解決策かも

またそのあとがきによると、参加者の希望は、「ソフトウェア開発技術やプロジェク
トマネジメントについて語り合い、これまでの経験を整理し世間に発表していきたい
」「ソフトウェアのあり方を考え、IT技術者が蓄積してきたものを今後に生かして
いく道を考えたい」「若者のIT教育のあり方を考え、教材などをつくることでわれわ
れの知識と経験をこの業界に入った若者たちに伝えていきたい」「セミナーの講師にな
ったり、講演会で講演して話をしていきたい」「小・中・高等学校にも行って授業もし
てみたい」といったことという。

団塊世代が現場の第一線から大量にリタイアする「07年問題」が指摘されている。
プログラミング言語やネットワーク技術は時代とともに変化しても、システム概念
が決定的に違っているとは思われない。となれば、ベテランプログラマこそシステム
の設計や最適化に欠かせない人材ということになる。

LLP設立には1人当たり10万円の出資でいい。全国各地で同様の動きが始まれば、
ひょっとすると経産省が推進しているIT経営応援隊プロジェクトやITコーディネ
ータ制度がより充実するのではないか。

[IT記者会 Report 2006年7月7日号]